

講演会 & ライブ な日々⑫

古川 秀明

「木陰の物語フォーラム 2017」

7月29日、30日の二日間、木陰の物語フォーラム2017が開催された。

場所は同志社大学継志館。



団先生のイラスト入り案内板。

案内板のサイズはとても小さいが、描かれている絵は団先生のイラストだとすぐに分かるので何より分かりやすかった。

初日のプログラムは団先生が書かれた木陰の物語シリーズの作品からひとつを選び、そのことについて自分の意見を述べたり、フロアとやりとりをしたりする大喜利形式。

壇上で語るのには、宮井研治、菅野道英、早樫一男、岡田隆介、団士郎（敬称略）という錚々たる顔ぶれ。

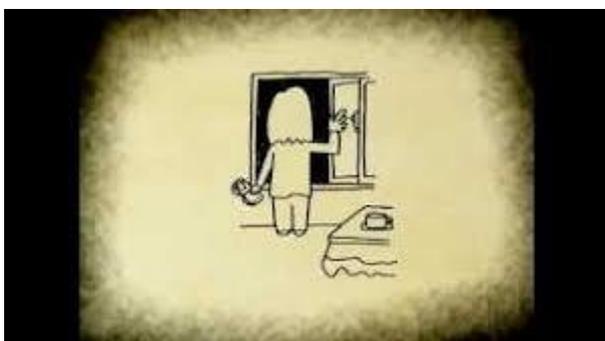
おもしろくないわけがない。

最初に選ばれた作品は「宿題」

木陰の物語のなかでも涙腺破壊ストーリーとして有名だ。

この対人援助マガジンの読者には団先生のファンがたくさんおられるし、木陰の物語に掲載されている「宿題」も知っておられる方がたくさんおられるだろうから内容の説明は省略する。

もし知らない方がおられたら、ユーチューブでも観ることができるので、それを観て欲しい。



何度読み返してもこのコマで泣きそうになってしまう自分がいる。

「固めてしまった説明に自分を閉じ込めるな。自分のために自由だということを忘れるな」という団先生の名言もここに沁みる。

壇上の先生方が取り上げられる木陰の物語の作品はどれも興味深く、その解説や意見はとても参考になる。

全部参加したかったのだが、私にはこの日の夜に開催される懇親会でライブをするという大役が待っている。

懇親会の会場に機材を搬入し、音響の調整をしなければならないので途中で退席した。

リハーサルでの細かい音の調整ができる音響専門のスタッフがいないので、事前準備にかなり手間取る。

機材のセッティングに1時間。各楽器とヴォーカルの音調整に最低30分はかかる。

会場の駐車場には他のバンドメンバーが待機してくれていた。エレベーターで大量の機材を運ぶのだが、2機ある会場のエレベーターはとても狭く、4台の台車で2往復しなければならなかった。



会場はホテルの宴会場。ライブはここで夕食を食べながらのディナーショー形式。

ディナーショー形式は過去に何度か経験しているが、とても難しい。お客さんは歌に退屈すると、すぐに食事にこころを奪われる。もちろんそれを乗り越える実力があれば問題ないのだが、それもない。ごたごた考えてもここまできたらもうやり抜くしかない。

午後6時、演奏開始。1曲目からみなさん温かく迎えて下さり、拍手や声援を頂き大盛況。

今回のライブでは曲の紹介にこの本からかなり引用させて頂いた。



この本の執筆者のみなさんの文章は、私の歌に魂を入れて下さった。
自分ひとりで歌っているのではなく、この本の執筆者のみなさんと一緒に歌っ
ているように思えた。

振り返ればあっという間の1時間。
木陰の物語フォーラムに参加されたみなさんから良い夏の思い出を頂いた。



今回の演奏曲

- 1 ブルーシャトー (ジャッキー吉川とブルーコメッツ)
- 2 恋のバカンス (ザ・ピーナッツ)
- 3 野良猫みたいに野良犬みたいに
- 4 あいうえお
- 5 アンガーコントロール
- 6 ひきこもり
- 7 君のさよなら
- 8 私の言葉に
- 9 家族の歌
- 10 コーリング
- 11 シーラブズユー (ザ・ビートルズ)

シンガーソングカウンセラー
古川秀明